

前回会議（グループワーク）でのご意見を踏まえた 計画の柱立て等の検討

（前回会議での検討内容）

前々回会議で話し合われた課題やニーズ調査結果から見える課題を確認した上で、事務局より提示した施策の方向性の例示を参考にしながら、計画の柱立てについて検討を行いました。

1 グループの主なご意見

＜計画の柱立て＞

- ・親のための子育て支援ではなく、子どものための子育て支援として、子どもが「かしこくなるために」、「楽しいと思えるために」、「おいしいと思えるために（食育の推進）」という視点が必要か。また、そういう子どもたちを見て、親の子育ての喜びにつながる。
- ・また、「保育園・幼稚園・学校ぐるみ」で1つ、地域の方々に助けていただく「地域ぐるみ」、中心は親なので「親ぐるみ」、それと「子ども」の4つの視点ではどうか。

＜施策の方向性＞

- ・「食育の推進」を施策の方向性に加えたい。
- ・民間保育の充実（市の財政や他市の状況からも官から民へ）。
- ・財政の無駄を省いて、その分を子ども・子育てに充実させる。
- ・核家族の増加から地域の支援の必要性。
- ・発達障害児への取組み（適切な支援をすることで社会に適應できる）。

＜その他＞

- ・親にこの計画が届くように分かりやすい表現の方がよい。

2 グループの主なご意見

＜基本理念＞

- ・「家庭力をつける」、「地域力を育てる」、「つながる」、「思いやり」、「生きる力」の視点。

＜計画の柱立て＞

- ・安心・安全に子育てできる環境（親同士のつながり、親も子どもも生きる力が必要、支援を必要とする子どもへの支援）。
- ・仕事と子育ての両立。
- ・地域力をいかした子育て、多様な子育て。地域の子育て力、コミュニティ力。

(つづき)

<施策の方向性>

- ・子育て環境の質の向上
- ・安全な環境づくり
- ・きっかけづくり、仕組みづくり

3グループの主な意見

<基本理念>

- ・子育ては、親ではなく子どもの育ちを中心に考えていくことが必要ではないか。
- ・基本理念では、ある特定の部分に特化して「ここは全国有数のものを目指していく」というものの方が良いと思う。それによって全国的にも注目され、市のPRにもなるのではないか。横浜市も特化した取組みによって、全国から注目を集めた。従来桑名市は、平均点は満たしているが、いずれも100点はとれていないと感じる。
- ・今までの議論や実体験も含めて、公立と私立との連携、幼保と公立小学校との連携のなさを感じる。

<計画の柱立て>

- ・保育、教育、医療、親、養育環境などで柱立てをしてはどうか。
- ・「全ての子どもたちに健やかな育ちを等しく保障するまちづくり」「子育てや子どもの成長に喜びや生きがいを感じることでできるまちづくり」など、国の基本指針を参照してはどうか。

<施策の方向性>

- ・次世代に借金を残さないことが何よりも大事。プラスしてだけでなく、カットすべきはカットする。そのために、例えば学童の本質を見極め、付加価値部分はカットすることも検討すべき。

これらいただいたご意見を踏まえるとともに、ヒアリングなどでの市民の声を参考にしながら、あらためて基本理念や基本目標などの計画の柱立て等について、ご検討いただきます。



桑名市子ども・子育て支援事業計画（仮称）の柱立て等の検討

基本理念

【前回会議での意見（再掲）】

- ・「家庭力をつける」、「地域力を育てる」、「つながる」、「思いやり」、「生きる力」の視点。
- ・子育ては、親ではなく子どもの育ちを中心に考えていくことが必要ではないか。
- ・基本理念では、ある特定の部分に特化して「ここは全国有数のものを目指していく」というものの方が良いと思う。それによって全国的にも注目され、市のPRにもなるのではないか。横浜市も特化した取組みによって、全国から注目を集めた。従来桑名市は、平均点は満たしているが、いずれも100点はとれていないと感じる。
- ・今までの議論や実体験も含めて、公立と私立との連携、幼保と公立小学校との連携のなさを感じる。
- ・親にこの計画が届くように分かりやすい表現の方がよい。

計画の柱立て（基本目標）

【前回会議での意見（再掲）】

- ・親のための子育て支援ではなく、子どものための子育て支援として、子どもが「かしこくなるために」、「楽しいと思えるために」、「おいしいと思えるために（食育の推進）」という視点が必要か。また、そういう子どもたちを見て、親の子育ての喜びにつながる。
- ・また、「保育園・幼稚園・学校ぐるみ」で1つ、地域の方々に助けていただく「地域ぐるみ」、中心は親なので「親ぐるみ」、それと「子ども」の4つの視点ではどうか。
- ・安心・安全に子育てできる環境（親同士のつながり、親も子どもも生きる力が必要、支援を必要とする子どもへの支援）。
- ・仕事と子育ての両立。
- ・地域力をいかした子育て、多様な子育て。地域の子育て力、コミュニティカ。
- ・保育、教育、医療、親、養育環境などで柱立てをしてはどうか。
- ・「全ての子どもたちに健やかな育ちを等しく保障するまちづくり」「子育てや子どもの成長に喜びや生きがいを感じることでできるまちづくり」など、国の基本指針を参照してはどうか。
- ・親にこの計画が届くように分かりやすい表現の方がよい。

課題から考えられる施策の方向性【例示】

- 核家族化の進展や、ひとり親家庭の増加等の要因より、子育て支援の充実や地域ぐるみの子育ての推進
- 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進
- 就労を希望する母親が働きながら安心して子育てできる環境の整備
- 幼児期における教育・保育の充実
- 施設・事業の利用者の利便性向上
- 就学前の子どもの社会性や協調性の醸成
- 子どもが安心して過ごせる居場所や遊び場の確保
- 男女が協力して子育てできる環境の整備
- 小児医療や病児・病後児保育の充実
- 子育てに関する積極的で多角的な情報提供、親の安心につながる相談窓口の充実
- 子育てに関する親の自己肯定感を後押しするような施策（子育て講座等）の充実
- 子育て中の親を孤立させないよう、親同士の交流の場や相談の場の充実
- 地域における子どもの安全の確保や見守り体制の充実
- 特別な支援を必要とする子どもに対する支援の充実、関係機関との連携
- 放課後児童クラブのハードとソフトの両面における充実
- 学校－地域－親とのつながり
- 子育てをしながら自己実現できるよう女性の自主的な活動の支援
- 限られた予算で取り組む中で、優先順位をつける必要性

【前回会議での意見（再掲）】

- ・「食育の推進」を施策の方向性に加えたい。
- ・民間保育の充実（市の財政や他市の状況からも官から民へ）。
- ・財政の無駄を省いて、その分を子ども・子育てに充実させる。
- ・核家族の増加から地域の支援の必要性。
- ・発達障害児への取組み（適切な支援をすることで社会に適應できる）。
- ・子育て環境の質の向上 ・安全な環境づくり ・きっかけづくり、仕組みづくり
- ・次世代に借金を残さないことが何よりも大事。プラスしていくだけでなく、カットすべきはカットする。そのために、例えば学童の本質を見極め、付加価値部分はカットすることも検討すべき。